

編	集	後	記
---	---	---	---

猛暑の中を7・8合併号をおとどけする。本号は医学書院の春闘で7号と8号と合併せざるを得なくなった。しかし、年間の予定計画は変更していないので、本号の特集は2つの号に分けて載せる予定であった9つの論文が1つにまとまって載るといふ豪華版となった次第である。

本号特集のテーマの四肢麻痺——頸髄損傷はリハ医学の中でも特に高度の技術を必要とする領域であり、また一方、社会復帰の極めて困難な領域である。本号の小野・石川両氏の成績も退院者43名中に就職したもの1名とのことである。わが国の社会的環境からみると、この1名の復職者がどのような状態で復職されているかに強い関心を抱き、よくぞ復職されたと考えるのが現状であろう。

津山教授の巻頭言は、この特集の序文として極めてふさわしいもので、読者はこれによって頸髄損傷に関する現在における問題点を概括的に知ることができ、特集論文を読むための基礎知識をあたえられるであろう。荻島氏の装具と矢部氏の手の機能再建術の論文は、ともに損傷レベル別に整理されており、前者はリハ医の立場から、後者は整形外科医の立場からのアプローチであるので、比較して読むと興味が深い。その他、保存的療法・観血的療法から、電動車椅子、スポーツ、理学療法、ADLの問題点の中で電話と電動空気制御とならんだ特集論文によって頸髄損傷に関するわが国の現在のレベルを容易に把握することができるのではなかろうか。

研究と報告欄の田中氏の視覚障害者のリハに関する論文は、本誌に載ったこの方面の最初の論文であるが、今後、視覚障害者のリハの特集も予定しており、この領域に関する投稿を期待するものである。また、大井氏の論文は、さきに同氏が本誌に紹介したCybex machineを用いた実験であるが、このisokinetic contractionを利用した機器は今後発展の可能性をもっているものと思われるので、さらにこの方面での研究が進められることを期待するものである。(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和	砂 原 茂 一
大 島 良 雄	津 山 直 一
小 池 文 英	水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙	荻 島 秀 男
上 田 敏	土 屋 弘 吉
大 井 淑 雄	横 山 巖
大 川 嗣 雄	

編集同人

赤 津 隆	橋 倉 一 裕
青 山 孝	平 方 義 信
今 田 拓	三 島 博 信
今 村 哲 夫	山 内 裕 雄
江 口 寿 栄 夫	渡 辺 英 夫
小 野 啓 郎	飯 田 卯 之 吉
河 邨 文 一 郎	遠 藤 千 恵 子
金 久 卓 也	小 川 孟
兼 松 英 夫	加 藤 一 郎
五 味 重 春	小 島 蓉 子
沢 村 誠 志	笹 沼 澄 子
杉 山 尚	鈴 木 明 子
中 村 裕	高 田 玲 子
野 島 元 雄	陳 慧 玉
間 得 之	野 本 卓
長 谷 川 恒 雄	

(以上五十音順、敬称略)

(担当：細田，田村，鹿島)